

令和元年度 第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

議 事 録

日 時：令和元年6月7日（金） 午前10時～11時20分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：斎藤義晶（札幌市市民文化局文化部文化振興課長）、竹本和子（札幌市立大倉山小学校PTA副会長）、青山貴志（宮の森まちづくりセンター所長）、吉田重弘（宮の森明和会長）、國松明日香（彫刻家）、村上裕子（札幌市立三角山小学校長）、寺嶋弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館長） 以上7名

所 管 課：堀井一生（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係長）、吉澤崇博（同文化振興課振興係事務職員）

事 務 局：岩崎直人（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）、山下秀幸（同業務係事務職員）、山田のぞみ（同業務係事務職員）

- 次 第：1 開会
2 議事
（1）令和元年度運営方針について
（2）令和元年度事業計画について
（3）意見交換
（4）その他
3 閉会

当日配付資料：

- ・令和元年度本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会委員名簿
- ・令和元年度第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・美術館運営の基本方針
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館2019年度事業計画
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館令和元年度 事業経過報告
- ・令和元年度開催事業チラシ等（4種）

議事内容：

（1）令和元年度運営方針

寺嶋委員が当館館長としての側面も踏まえて当館の運営方針を博物館の五本の基幹活動になぞらえながら説明を行った。さらに、開館以来の入館者数の推移を説明。昨年度28年振りに本館入館者が1万人を超えたことを報告。

（2）令和元年度事業計画について

事務局より配付資料に基づき、令和元年度事業計画及び6月6日現在までの経過

報告を行った。

(3) 意見交換

吉田：待ちに待った本館の来館者数1万人を超えたこと、大変目出度いことだ。

青山：北海道神宮にはたくさんの参拝者がいらっしゃる。彫刻美術館に足を運ぶ人がそのうちの数%でもあればよいのだが。

國松：基本的には入館者数はこのままでよい。ただ、あえて言うならば、バスの駐車スペースがあれば。観光ガイドなども誘致できるであろう。

竹本：主婦の立場から。三島のヴァンジ美術館、クレマチスの丘は緑豊かな場所に立地している。近隣の子育て世代がよくいらしてる。地域の人に愛されている美術館だなあと感じていた。彫刻美術館もまた、散歩がてら、芝生のスペースに自由に入ったりできる憩いの場になったりするとよい。地域に愛される美術館とは、そういうことでは。カフェがいい。人が集まる場所を作ることが大事。美術館でもあり、地区センターでもあり、公園でもある。そんな憩いの場。

國松：デッサン教室の受講生が館内でデッサンしているということは、今、初めて知った。もっと発信してよいのではないか。ルルドというパン屋さんのアンテナショップをやったらどうか。私も声をかけている。また、宮の森緑地の有効活用を検討して欲しい。本郷新賞の受賞作をこの公園に設置するのはどうか。

村上：（彫刻美術館での授業が）教育課程に組み込まれており、（学年が上がっても）継続していることに価値がある。開放図書館のような機能をここにも持たせられないだろうか。これを利用した子たちは大人になって今度は手伝う側として帰ってくる。子どもたちが、自分たちが活動しているということを実感できるボランティア的な活動ができないか。

斎藤：彫刻美術館の事業は本当に工夫されている。連携も巧み。手で触れる彫刻展が印象的で、目の不自由な方、子どもたちも鑑賞しやすくなる。「わくわく★アートスクール」作品展は、子どもたちの作品が美術館に並ぶので、思い出にも残るし、美術館への愛着にもつながる。

(4) その他

① 苦情報告

印刷物の観覧料に関する校正漏れ、および美術館前道路への雪割り、融雪処理に関して、今後改善していく旨、報告。

② 次回開催日時は9月6日（金）を予定しており、改めて連絡する。